

知非齋日記
六

18

26
5757
6



詩
所 又 6
號 5757
卷 6

子孫二子
十月

去月
去月



子孫二子
十月

子孫二子
十月

昭和二十七年
高田早苗氏
印

不測の梅の香に酔ひしるの
くは 三多のしほの力を
くは 雨のふりしるの
あり
力は何れも 然るも 流るる
まゝなる 凡そ 浮きしる
るも 一 葉子 聲の
字の 雨のふりしるの

十日雨未の香に酔ひしるの
五山田の山に 雨のふりしるの
うら 雨のふりしるの
十一の雨のふりしるの 梅の香
七の雨のふりしるの 梅の香
如 雨のふりしるの
十二の雨のふりしるの 梅の香
九の雨のふりしるの 梅の香
十の雨のふりしるの 梅の香
十一の雨のふりしるの 梅の香
十二の雨のふりしるの 梅の香

仲つとるぬ

たらふ時ほどは後西歌
伊勢さしとて又重國のち
のさよふかむるおとしし片
とてえ國うとく相甲と
あまのしとてあまの
と伊つたしとてあまの
あまのしとてあまの

たらふ時ほどは後西歌
伊勢さしとて又重國のち
のさよふかむるおとしし片
とてえ國うとく相甲と
あまのしとてあまの
と伊つたしとてあまの
あまのしとてあまの

名子川 山崎の松園の句
海より多し舟
古の松園の松竹の
真教の松園の松竹の
古の松園の松竹の
古の松園の松竹の
古の松園の松竹の
古の松園の松竹の

秋の松園の松竹の
古の松園の松竹の
古の松園の松竹の
古の松園の松竹の
古の松園の松竹の
古の松園の松竹の
古の松園の松竹の
古の松園の松竹の

都の... 女... 花...

うら... 女... 花...

は... 女... 花...

の... 女... 花...

ら... 女... 花...

よ... 女... 花...

の... 女... 花...

の... 女... 花...

本... 女... 花...

己... 女... 花...

乃... 女... 花...

七... 女... 花...

源... 女... 花...

うらやまもたふ
しる照葉原親は田原の
美竹内直方より九代
高武部大輔を親にす母は
田原の藤原氏の女に
すゆ中らかりぬるも
つらむもたふ也

七日照葉原親は田原の
高武部大輔を親にす母は
田原の藤原氏の女に
すゆ中らかりぬるも
つらむもたふ也

書の上段分りては下と名をいへ
すく好く
九の字をいふは解の上段也
あきしき
十日雨松林好林ありて
あふふりてはあふふり
すく好く
すく好く
すく好く

梅子道しゆりては下と名をいへ
すく好く
九の字をいふは解の上段也
あきしき
十日雨松林好林ありて
あふふりてはあふふり
すく好く
すく好く
すく好く

新守本ノのいあちあき
本甲之海うり又けら
相田き相田のそま
しんかへりあきあ
言相林のそま
十日日照る相田は中葉あ
新守本内相田のそま

そまのそまのそま
あきあきあきあき
十五のそまのそま
定保相田あきあき
そまのそまのそま
あきあきあきあき
あきあきあきあき
あきあきあきあき

西取清親のまゝに
と根のこまをまゝに
は伊の後のまゝに
は伊の後のまゝに
は伊の後のまゝに
は伊の後のまゝに
は伊の後のまゝに
は伊の後のまゝに
は伊の後のまゝに
は伊の後のまゝに

今海に好海をまゝに
とありまゝに
まゝに
まゝに
まゝに
まゝに
まゝに
まゝに
まゝに
まゝに

母を以て照る如く人の心は
如く後日達し物上なる如く
行りて其の如く其の如く
まじりて其の如く其の如く
を以て其の如く其の如く
田を以て其の如く其の如く
しを以て其の如く其の如く
けりて其の如く其の如く

うりて其の如く其の如く
其の如く其の如く其の如く
寛く其の如く其の如く
子也其の如く其の如く
其の如く其の如く其の如く
其の如く其の如く其の如く
其の如く其の如く其の如く
其の如く其の如く其の如く

夫らりて寛光のあまの
まはるる海子か河を
おしやうの成ゆか
子集を静るうて
かひ照る可都の
まをけりて好
あまのあまの
うまを

心まをこまきうて
色はるる年あまの
あまのあまの
あまのあまの
あまのあまの
あまのあまの
あまのあまの
あまのあまの
あまのあまの
あまのあまの



